校長室だより

三刀屋高等学校・掛合分校

第58号

令和４年11月９日

○「豊かさとは？」

研修旅行先ホテルでの夕食の風景⇒

第46回島根県高等学校演劇発表大会で、本校、分校がともに最優秀賞をとり、アベックで中国大会出場という快挙を達成しました。分校の演目は、「走れ！山月記」。キャストは分校の演劇同好会1名という一人芝居でしたが、スタッフである舞台監督、照明、音響、舞台の各係は本校演劇部10名が担う本校・分校のコラボ作品でもありました。そういう意味でも意義深い演劇となりました。

本校の演目は「ローカル線に乗って」でした。この演目では、豊かさとは何かを、木次線の存続と存在意義を昭和・平成へのタイムスリップを通して考える内容でした。

先月本校2年生の徳島・香川への研修旅行が終わりました。徳島県神山町がメインで、神山町で暮らす人・働く人との町歩きやワークショップ「神山町研修プログラム」で“自分らしい働き方とは？暮らし方とは？”について考える契機となることを期待した研修でした。

神山町は、都市圏のIT企業等がサテライトオフィスを置くパイオニアの町として有名です。しかし、見方を変えれば、スマホを含むITを使う環境が大きく変化しただけだとも言えます。スマホ等をあたりまえに使うIT社会から逃れることはできない前提があるとも言えます。その中で、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を最大限重視した町とも言えるのではないでしょうか。

先日、伊豆に移住したある女性のドキュメンタリー番組を観ました。都会の広告会社で働いていたが、スマホを四六時中気にしていないといけない仕事だったため心身ともに疲弊し、休養のため伊豆の海に潜りに行ったそうです。その時スマホから完全に遮断された時間がとても心地よくて、そうしたら伊豆の自然が素晴らしく映って移住を決めたというものでした。

公演や講演等でよく「スマホの電源をお切りになるかマナーモードにしてください」と言われます。今回の演劇発表会では、「スマホ等の電源はお切りください」とアナウンスがありました。なにかとてもほっとした気分となり、上演中は完全に劇に没頭できました。マナーモード中に振動があると、その内容が気になり、かといって確認することもできず、目の前の公演等に没入できないことがままあります。しかし、完全に電源を切るには勇気がいることも確かです。だから主催者側から電源を切るという一択が示されたことは、スマホ社会に生きる自分にとっては、別な安心感を覚えたのだと思います。平たく言えば、即座に対応しなかったのは自分のせいではないという言い訳ができたということでしょうか。

最近、ある全寮制の高校の校長先生と話す機会がありました。学校の立地状況からスマホ等がつながりにくいこともあり、生徒のほとんどはスマホがないことに不自由していないとのこと。全寮制でもあることから、会話は直接することがあたりまえとなっているということでした。

演劇の場面では、スマホを持つ令和の女性が、昭和や平成時代のスマホを知らない乗客の乗る木次線の列車に乗り合わせるところから本題に入っていきます。知らないことがわかったり、知らない誰かとつながったり、スマホの生み出す世界は無限かもしれません。一方で、見えるはずの世界が見えなくなっていたり、深くつながっていけるはずの関係が希薄のままだったりすることもあります。そこから、人間関係のトラブルがおきることもあります。

私たちは、普段言いにくいことをスマホ（SNS）で伝えることがしばしばあります。電話や会話はリアルタイムなので相手の事情に関係なく相手の時間を確実に使うことになりますが、SNSなら相手の都合のよい時間に自分の考えを伝えることができます。そのため、遠慮がなくなることもあります。本校では、８日に人権・同和教育の１年生のLHRで、SNSを題材に「様々な価値観を尊重できる人になろう」というテーマを扱いました。気づける感性は養われたでしょうか・・・。